

第 24 回 丹沢大山自然再生委員会（令和 5 年度総会） 議事録

日時： 令和 5 年 6 月 29 日（木） 13:30～16:00

会場： 産業貿易センターB102 会議室

○事務局 新谷

皆様こんにちは。定刻となりましたので、これより第 24 回丹沢大山自然再生委員会総会を開会いたします。開会に先立ちまして、数点ご説明させていただきます。

まずお手元にお配りしております再生委員会名簿、資料 4 ですが、代表者の方の交替や、人事異動などによる委員の変更につきまして、事前にお聴き取りをできる限り修正しておりますが、直っていないものがありましたら、恐れ入りますが後ほど事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

また、その他の差し替え資料といたしまして、『資料 1』『資料 6』をお配りしています。また参考資料として、『令和 4 年度共催・後援イベント等活動報告集』をご用意いたしましたので、後ほどご覧下さい。なお本日の資料につきましては事前に郵送させていただいておりますが、お持ちになっておられない方、不足資料がある方は事務局までお申しつけ下さい。

本日委員 44 名のうち出席者 24 名、委任状提出 16 名、書面評決 1 名の計 41 名です。議案は 41 名の過半数をもって決することをご報告いたします。それではこれからの議事進行につきましては、勝山委員長をお願いいたします。

○勝山委員長

本日はお忙しい中、丹沢大山自然再生委員会総会へご出席いただき、誠にありがとうございます。私は現委員長の勝山です。小田原にある生命の星地球博物館で植物の学芸員をやっておりましたが、現在は退職しております。よろしくをお願いいたします。

4 年ぶりの対面開催という事で、この間皆様におかれましては、コロナ禍の中で大変な状況であったことをご推察いたします。考えてみればリモートの会議では顔を合わせていたので、ずっとお会いしていたように思っておりましたが、今日は何人かの方からお名刺を頂いたり、久しぶりに顔を合わせたり、あるいは初めてお会いしてお話する、という風になっております。皆様と再会して議論できることを大変うれしく思っております。

再生委員会総会は平成 18 年の 10 月に第 1 回が開催されまして、今年で 24 回目を迎えます。大分年数が経ちましたので、色々と課題もあると思いますが、少しでも丹沢をよくするために努力をしていきたいと思っております。

コロナ禍は web またはオンラインで総会を開催していましたが、例年秋から冬にかけて実施しております活動報告会もオンラインでした。対面ではなかったことで、手軽に参加できてよかったことや、資料が見やすくなった等、それはそれでよかったと思いますが、やはり対面でないと中々わからない雰囲気もあるかと思ったり、オンラインでの経験も今後役に立つこともあるのではないかと思います。そういう経験をうまく生かされているのではないかと推察いたします。

県の丹沢大山自然再生計画が第 4 期になって、この 3 月に策定されております。これに併せて、今年度から新しい事業が始まると思っております。私たち自然再生委員会としましては、これを機に新しい取り組み

を始めたり、あるいは長年懸案の丹沢自然再生基本構想から 17 年経っているのに、さすがに少しいじくらないといけない部分もあると思うので、その改定にも取り組めたらと思っています。

本日の委員会ですが、昨年度の事業実績及び決算を報告して、皆様にご審議していただきます。その次に今年度の事業計画、および予算について、さらに今年度の活動報告会の開催について審議していただくこととなります。短い時間ではありますが、盛りだくさんになりますので、スムーズに進めていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

ではさっそく議事に入りたいと思います。

【第 1 号議案】 令和 4 年度事業実績報告（企業等からの寄付報告含む）

【第 2 号議案】 令和 4 年度決算報告

<事務局より資料 1、2 に基づき説明>

○勝山委員長

どうもありがとうございます。1 号議案の令和 4 年度事業実績報告と、2 号議案の令和 4 年度決算報告をしていただきました。ここで令和 4 年度監査報告をさせていただきます。まず小川監事からお願いいたします。

【第 3 号議案】 令和 4 年度監査報告

○小川監事

監事小川です。よろしくお願いいたします。令和 5 年 5 月 26 日に丹沢大山自然再生委員会の監査を行いましたところ、収支決算が適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。

○勝山委員長

ありがとうございます。続いて大西監事からお願いいたします。

○大西監事

監事の大西です。令和 5 年 5 月 31 日、丹沢大山自然再生委員会の監査を行いましたところ、収支決算が適正に処理されていることを確認いたしましたのでご報告いたします。

○勝山委員長

どうもありがとうございました。1 号議案から 3 号議案までの事業実績報告及び決算報告につきまして、何かご質問はありますでしょうか。

<質疑応答> 無し

○勝山委員長

それでは特にご意見がなかったので、ご承認をお願いしたいと思います。意義がなければ拍手をお願いします。

○ 一同 拍手

○勝山委員長

ありがとうございました。本件は承認されました。寄付等のご協力をいただいたウエイズグループの皆様、どうもありがとうございました。

続いて、第4号議案 役員・幹事・監事の改選に進みたいと思います。

資料4に、現在の再生委員会の名簿があります。氏名の右隣に、現時点の役員監事等の二重丸がついております。役員というのは、委員長・副委員長・各専門部会の会長及び会計監査の監事ということで、委員長と副委員長は本日この会議の中で選出することになっております。各専門部会の会長は、事前に専門部会で選任することになっているので、すでに決まっていると思います。

では委員長と副委員長の選任をこの場で行いたいと思います。各委員の皆様、ご発言があれば。

○羽澄委員

この自然再生委員会の当初からの経緯や目的目標について、よくご理解いただいているという事で、お忙しい中大変だとは思いますが、これまでに引き続き勝山さんと滝沢さんをお願いしたいと思いますがいかがでしょうか

○ 一同 拍手

○勝山委員長

ありがとうございます。ただいま羽澄委員から発言がありましたが、皆様拍手を以て賛同いただけたようですので、異議がなければもう一期務めさせていただきます。思うようにできないかもしれませんが、皆さんの協力のもと、努力して参りたいと思います。

○滝沢委員

滝沢です。どうぞよろしくお願いたします。

○勝山委員長

どうもありがとうございました。続いて専門部会会長の選任ですが、本日の総会前に事業計画評価部会と、調査専門部会、および県民事業部会を臨時で開催して、現部会長が選任されております。事業計画評価専門部会は秋山部会長、専門部会長は糸長部会長、県民事業部会は小林部会長ということになっております。これについても、拍手で選任していただければ。

○ 一同 拍手

○勝山委員長

どうもありがとうございました。現役員が全員続投・再任という事で引き続きどうぞよろしくお願いたします。

それでは第5号議案 令和5年度事業計画、第6号議案 令和5年度予算を合わせて事務局から説明をお願いします。

【第5号議案】 令和5年度事業計画

【第6号議案】 令和5年度予算

<事務局より資料5、6に基づき説明>

○勝山委員長

どうもありがとうございました。事業計画の中にございます活動報告会につきましては第8号議案として用意しておりますので、そちらでご意見を伺いたいと思います。それ以外の部分で、令和5年度の事業計画および5年度の予算について、ご質問やご意見について伺いたいと思います。

<質疑応答>

○青砥委員

神奈川県自然保護協会の青砥と申します。支出を見ていくと、令和5年と令和4年事業関係色々と全部を比較して増減なしで、予備費だけが増えています。この金額を見るとかなり大きくて、この感じと同じ規模の事業をやっていて、去年はたくさん余っていますけど、普通はだんだん増えていくと思うのですが、この予備費について、将来的に大きな事業をやるうとか、使い道についてのアイデアなどはあるのでしょうか

○事務局 新谷

コロナ禍において活動自体が実施できなかったこともありますが、幹事会等のズームでの開催や資料のデータ配布等により、会場使用料、旅費、郵送料、印刷製本費を削減できたこともあり、予備費が増加している状況です。

予備費については第7号議案で新たな委員会活動の検討を提案しておりますが、幹事会と一緒に考えていきたいと考えております。

○勝山委員長

次の7号議案でご意見を伺おうかと思っておりました。他には。

○鈴木委員

普及啓発事業ですが、活動団体の連携という事で、すでに本年の5月に堂平でこの事業が行われたということですが、久しぶりに現地で行われたと思うので、雰囲気が変わっていたとか、どのくらい参加していただけたとか、そのあたりの状況をご紹介いただければと思います。

○事務局 新谷

堂平の塩水林道の終点から稜線に出るまでの間をご覧いただきました。主に自然林中心にお話をさせていただいて、自然環境保全センター職員の田村と永田が森林や植生の回復状況、シカによる採食状況について説明して、大変ご好評いただいたと聞いております。主催の丹沢自然保護協会の会報にも当日の状況や感想を記載していただいています。

○勝山委員長

ありがとうございました。

では、特に大きな異議等ございませんでしたので、よろしければ拍手でご承認いただきたいと思います。

○一同 拍手

○勝山委員長

ありがとうございました。本件は承認されました。

それでは次に第7号議案ですが、令和5年度以降の委員会活動の検討という事で、先ほどの予備費が非常に多くあるということも含めて議論したいと思います。

【第7号議案】 令和5年度以降の委員会活動の検討

<事務局より資料7に基づき説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。

先日の幹事会でも予備費について話題になりましたが、まず皆さんにアイデアがないかお聞きしようという事になりました。いいアイデアがありましたら、遠慮なく言っていただければと思います。いかがでしょうか。順調に活動が進んでいくと、2年くらいで執行残が無くなっていくと思いますが、先ほど青砥さんが言ったように、大体昨年並みの計画でいくと、この2、3年の間に蓄積させたものについては残っていくこととなりますので、何かできるのではないかとということが話題になっていました。すぐに決められるかという点、中々そうはいかないかもしれませんが、いくつか検討するためのアイデアを頂けたらと思っております。何かこういうことにお金を使ってほしいとか、皆さんそれぞれ自前で活動されていますが、こんな部分が足りないんじゃないかとか。県民部会の小林さん、ご意見はありませんか。

<質疑応答>

○小林委員

県民部会で古くなった冊子（丹沢副読本）を新しくするという事で、大体完成に近づいていると思いますが、あるボランティアネットワーク団体からそこから「丹沢検定」を始めたらどうだろうか。再生委員会のようなところで取り組めば環境啓発にもなるし、再生活動の重要な役割を果たすのではないかと考えております。

○勝山委員長

調査部会を作って、調査研究費の助成などをやってきましたが、個々の普及啓発活動の支援にも関連した助成事業でも活性化できるのではないかと考えております。

○糸長委員

幹事会で検討することも含めてですが、アイデア段階ではありますが、丹沢再生計画があと2年位で20年になると思います。当初から基金作りをどうするかという論議があったと思います。金額としては大きくないですが、これを種として丹沢大山再生基金活動的な事や、10年後にこうなっていてほしいというためのクラウドか何かを検討していくべきであろうし、一つ心配なのは、今後異常気象等々でどんどん厳しくなる中で、麓の地域の生き残りを防災も含めて、今からちゃんと仕掛けていかなければいけないと思うので、自主的な活動に使えるような仕組みづくりを考えると。あとは今年もやってほしいと思っている OECM という里山エリアの自然保護と再生をどう地域と連携を取ってやっていくのか、どういう仕組みづくりをすればいいのか。環境省マターで言えば、生き物調査が必須条件になるので、どうやって紐づけていくのか。やらなければいけないことは多々あります。そういう意味で今後はこれを活用してどういうふうにしていくかという検討会のようなものを作っていくのも一つかなと。

あともう一点。企業の参加を受けているのは非常によろしい事だと思います。皆さんはご存知だと思いますが、TCFDとかTNFDとか、30by30ですとか、企業の会計上での報告を宣言するという仕組みが本格化してくると思います。企業にとっても丹沢大山再生活動に係ることがどういう意味があるか、その場合によってはESG的なことも含めてもっと投資してもいいということも出てくるかもしれない。20年前に構想したけど中々実現できていないあたりを再度追加検討していくことも非常に重要かと思えます。

○羽澄委員

今の糸長先生のお話も重要だと思って拝聴したんですが、長らくやってきて非常に重要だと思ったのは、若い世代の丹沢大山に関する関心がすごく薄くて、この場所だけでなく、どの分野でも後継者不足です。例えば丹沢の生物多様性の保護に関する関心であったり、研究活動に参加する人たちも非常に枯渇してきているという現状があります。ここまで自然再生委員会がやってきたわけですが、そのベースを持続する研究活動が非常に希薄になっていく。そうなってくると情報が希薄になってくるので保全活動が非常に薄っぺらくなっていくのは目に見えている。そういう意味では社会的には今糸長さんがおっしゃった30by30だとか、OECMのお話が大変重要ですが、それを支える人材が枯渇していくということを考えると、神奈川県民の地元の自然に対する理解という意味での小中高への出張レクチャーを活性化

させるとか、自然保護に参加はしなくても丹沢の自然が重要であるということを理解する人を県民の中に増やしていくということを考えた時に、地道に出張レクチャーを 20 年位続けていけば、神奈川県民も変わるかなと思います。

○勝山委員長

ありがとうございます。後継者を育てていこうということで、小中高校への出張レクチャーだとか、小中高校生の研究活動を助成するとかアイデアができていきそうな感じがします。

この議題は中々結論が出せないなので、言いつばなしで結構なので、意見を言っただけならば、それを幹事会に持ち帰って整理して、今年度中にすぐというわけにはいかないかもしれませんが、スタートにしたいと思っております。まとまった話にならなくても構いませんので。

○秦野市 谷委員

秦野市環境共生課の谷です。昨年の 12 月に活動報告会の中でも発表させていただきましたが、OECM に関する取り組みの中で、丹沢と大山は他県からしたら狭い地域ですが、その中にかかなりの数の植物・生物がいる多様性の宝庫だと思っております。ただ国定公園が大部分を占めていて、すそ野に広がる里山地域も多様性を支えている部分ではあります。逆に丹沢の上の方ではないですが、下の里山の方の谷戸地域の水辺を中心とした多様性も出てきております。こういう中で、環境省がすすめている自然共生サイトの認定、そのあとに続く OECM への登録という形でやはり先ほどの、下支えの方たちの高齢化と後継者不足という中で、新たなモチベーションの一つとして新たな共生サイトの登録・認定もいいのではないかと思います。秦野市には 30 近い里山・里地の保全団体がありますが、どこの団体も非常に高齢化が進んでいて、活動自体の継続が難しいという課題を共通で持っていらっしやいました。そういつた中で、新たな活動のモチベーションと、若い人たちを取り込んでいくという中で、非常に魅力的な認定制度なのではないかと思います。認定に向けての条件として、通常里山団体はそこまでやっておりませんが、専門的な知識がある方によるデータ取り調査、もしこういったところに再生委員会の補助金であったり人材派遣等をやっていただけると、活動団体、あるいは地域の自治体における認定に向けての取り組みを進めていけるのではないかとということをご提案としてお話しさせていただきました。

あとは学校教育関係ですが、秦野市は 20 年近く独自に市内の小中・あるいは幼稚園・保育園に環境教育の一環として、「秦野エコスクール」として、授業の中のプログラムで希望していただいて、我々あるいはボランティア団体から派遣して、自然の中で体験型プログラムとして虫や動物の勉強をしたり、その他地球温暖化・省エネ・ごみの問題といったプログラムをやっています。これに関しては学校側の協力が必要で、学校は授業のカリキュラムがいっぱい、中々新たな取り組みが入る余地がないというのが現状です。それから中学高校になるとメニューを用意していても希望がないというのが実情になります。もっと希望していただければいいのですが、こちらで魅力的なプログラムを用意しても申し込みをしていただけない、というのが現状です。

○勝山委員長

ありがとうございました。秦野市では学校関係は難しいことがあるかと思いますが、取り組まれている部分があると。それから OECM の話で、やはり基礎的な生物調査などはまだまだ支援が足りないと思います。他に無ければ、今のお話を幹事会に受け取らせていただいて、少し工夫をしたいと思っております。

○秋山委員

事業計画評価専門部会の秋山です。糸長委員と羽澄委員をなぞるような形になってしまいますが、私も丹沢へのアプローチが減っているのではないかとことを危惧しています。もちろん長期的には糸長委員が言ったように、ファンド（基金）のような長期的なものも必要だと思いますが、短期的にはいかに丹沢に若い世代を引き寄せるかということが非常に大きな課題です。それから先ほど学校という話が出ましたが、今学校の部活動が岐路に立たされています。一つは教員の働き方改革で、部活動の顧問の在り方が見直されて、校外活動などについても今後どうなっていくのか不透明な部分があります。実際に私が高校の先生から聞いた話ですが、コロナ禍で中学生生活を過ごした子供たちが部活動に参加しなくなってしまうと聞きました。部活動に参加する子供が50%を切っている学校が多いということです。こういう流れの中で、そこを活性化していくというのが重要であると思います。例えばですが、県内外問わず、部活動でやってくる中高校生に山岳ガイドを付けることを補助するとか。部活動で山岳ガイドをあまり使う事はないと思いますが、ガイドによって、そういう方たちの安全を確保しながら丹沢を歩いてもらうとか。そうすることによって、山岳ガイドにも利があるのではないかと考えています。そういう助成の在り方を検討してもいいかなと考えています。

○勝山委員長

ありがとうございました。山岳ガイドを付けるためのアイデアではないかと思えます。それでは今のご意見を参考にさせていただいて、幹事会で議論していきたいと思えます。ありがとうございました。それでは続いて第8号議案 令和5年度丹沢大山自然再生活動報告会について、事務局から説明をお願いします。

【第8号議案】 令和5年度丹沢大山自然再生活動報告会について

<事務局より資料8に基づき説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。だいたいの流れはこんな感じで、前回の幹事会でも議論したのですが、まだ講演者、話題提供者が未定というところが問題なのですが。鈴木先生は関東大震災100年で何かやらないと、とおっしゃっていたので、ちょっときっかけがあれば。

<質疑応答>

○鈴木委員

こういうテーマを選んでいただくのはありがたい事だと思います。関東大震災の影響の一つは、自然災害としてということと、もう一つは自然環境への影響という、似ているけれども視点が違うというも

のがあります。もう一つは横浜や川崎の市民の方にアピールしようと思うと、何と言っても都市部での関東大震災というのは火災です。東京と横浜で10万人亡くなっているというのはまず火災です。そこからいくと、山地の荒廃とか自然災害、あるいは自然環境への影響というのは、マスコミ的に言うと二義的な雰囲気があることを理解した上でということです。さりながら、自然環境、あるいは土砂災害の防止というところに経験・知識がアピールできるという考え方があるかと思います。もう一つはこの10～15年間ぐらいで過去の写真の資料がずいぶん新しいものも含めて発掘されてきた部分もあります。これは著作権とか難しい部分があったりしますが、きちんと紹介できるように県でご努力いただければ、新しいこともあるかと思ったりしています。

○勝山委員長

ありがとうございます。

○羽澄委員

お話があったとおり、基調講演はぜひ鈴木先生で。いちばん適任ではないですか。

○勝山委員長

どうでしょうか？

○糸長委員

今鈴木先生がおっしゃった写真や資料の件で、丹沢資料保存会の皆さんが、震災直後、あるいはその前のものも含めて、もしあれば、ポスターの1コーナーに、関東大震災に特化した資料提示をしていただけるとありがたいなと思いますがいかがでしょうか。

○永森委員

丹沢資料保存会が保全センターに寄贈した、丹沢の大震災による崩壊跡地の写真は一つあります。この秋に山北で展示会を計画しておりますので、その時に展示する予定でおります。

○勝山委員長

ありがとうございます。何らかのポスターのようなものは出していただけそうな感じですね。

○糸長委員

今日は市町村の方も来られているので、文献を見る限り、山際の集落の崩壊などは井上さんの本でも掲載されているので、100年ということで地元での資料収集とか、生き証人はいないとしても2代目含めて何らかの伝承があると思いますので、そのあたり地元の市町村でも協力していただけないかと思います。

○勝山委員長

ありがとうございました。

特に丹沢南部は崩壊が激しかったと思うので、山北町のほうはアイデアございませんか。

○山北町 齋藤委員

地元の情報といったものは、リストのようなものをいただければそれに合わせて聞き取り等はお手伝いできるかと思っております。

○勝山委員長

ありがとうございます。講演者や話題提供者をどうしていこうかということになると思っておりますのでその辺はまた鈴木先生と相談させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。もう少し糸長先生から出たような形で地元の方たちから今まで埋もれていたようなことが出てくるかもしれませんが、その辺はまた幹事会で整理していただいて、各市町村にご協力をお願いするかもしれませんが、その節はよろしくお願ひいたします。何とか有意義な形の報告会にしていけたらと思っております。それではそのような方向で幹事会を中心に進めていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

これで用意した議案は無事終了いたしました。報告事項に入る前に 15 分ほど休憩を入れたいと思っております。

【 休憩 (15分) 】

○勝山委員長

それでは再開したいと思います。各専門部会の報告をお願いします。
まず事業計画・評価専門部会から報告です。

【報告事項 (1)】 専門部会からの報告について

(ア) 事業計画・評価専門部会

<秋山部会長より資料9にもとづき令和4年度の活動について説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。いまの報告について、ご意見・ご質問がありましたらお願ひいたします。再生計画の主要な財源である水源税が、あと4年でどうなるのか。そのあたりによっては丹沢の再生計画も色々な意味で見直して、真剣に議論しないといけないこともあると思っております。主に第4期計画は出来上がっていますので、あとで事務局から説明があると思っておりますが、そのあたりの話題として思った事を上げさせていただきます。

質問等よろしいでしょうか。次に、県民事業部会からの報告です。

(イ) 県民事業専門部会

<小林部会長より資料 10 にもとづき令和 4 年度の活動について説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。今の報告について、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

それでは県民事業専門部会の報告を終わらせていただきます。続いて調査専門部会からの報告です。質疑は調査内容の報告の後でまとめて行いたいと思います。

(ウ) 調査専門部会

<糸長部会長より資料 11 にもとづき令和 4 年度の活動、令和 5 年度の実施課題について説明>

<糸長部会長より資料 11 - 1~3 にもとづき 3 件の助成研究について説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。今の報告について、全体を通してご質問がありましたらお願いいたします。

<質疑応答 無し>

○勝山委員長

個別にリモートで報告会をやっておりますので、ご覧になった方も多かったかと思います。

以上で調査専門部会の報告を終了します。次の議題、第 4 期「丹沢大山自然再生計画」の策定について事務局から報告をお願いします。

【報告事項 (2)】 第 4 期「丹沢大山自然再生計画」の策定

<事務局より資料 12 にもとづき説明>

○勝山委員長

どうもありがとうございました。時間的にもいっぱいですが、何か感想がありましたらお願いします。

○羽澄委員

色々な、ブナの問題やシカの問題、動物が外に出るとか、そういう事に対する方向性というのは明確に打ち出されていると思いますが、特に特定外来生物のアライグマやクリハラリスに関しては、ずっと監視や防除にとどまっているのに、問題はどんどん広がってしまっているのに、具体的に対処しなければいけない特定外来動植物であるのにこれに対する方向性が何もない。自然再生員会は評価する立場だとしたときに、どうやって評価するのか、そこにも具体性がないなと思いました。そこは委員会として検討課題かなと思いました。

○勝山委員長

ありがとうございました。もう少し感想がありましたら。

○糸長委員

県の自然再生事業として人材育成系をもう一つの柱として市町村も関係も含めて検討してもらえれば。お金が無くなってきたときに、いい意味での民活も含めてどうやって行くのかが見えないので、あらためて心配になってきました。

○勝山委員長

ありがとうございました。実は再生委員会の事業評価部会や調査部会で今の話を盛り込んでいかなければいけないと思います。県のこの4年間の計画で進めていただくということですが、その次を見据えて議論をしないといけないという、糸長先生のつぶやきだったと思います。

第4期の丹沢大山自然再生計画は、それはそれで進めていただければと思います。その総括については事業評価部会を中心に組み立ててまいります。

その他ですが、委員の皆様、オブザーバーの皆様から何かございませんか。事務局からも何か伝達事項があれば。

○事務局 内山

今日名簿をお配りしておりますが、交代等ありましたらご連絡をお願いいたします。

○事務局 小永井

共催・後援活動費についてですが、再生委員会の構成員が自然再生活動をする場合、委員会として共催・後援して普及啓発活動に関するものであれば、活動費を助成することができます。その際に、様式がありますので、そちらにご記入していただければと思いますので、該当する団体の方には総会後にメールで送らせていただきますので、ご確認をお願いいたします。

○勝山委員長

それではこれもちまして、本日の議事を終了させていただきます。ありがとうございました。

○事務局 新谷

勝山委員長、ありがとうございました。これもちまして、第24回丹沢大山自然再生委員会総会を終了させていただきます。皆様どうもありがとうございました。